

# 上北農業生産情報 第5号

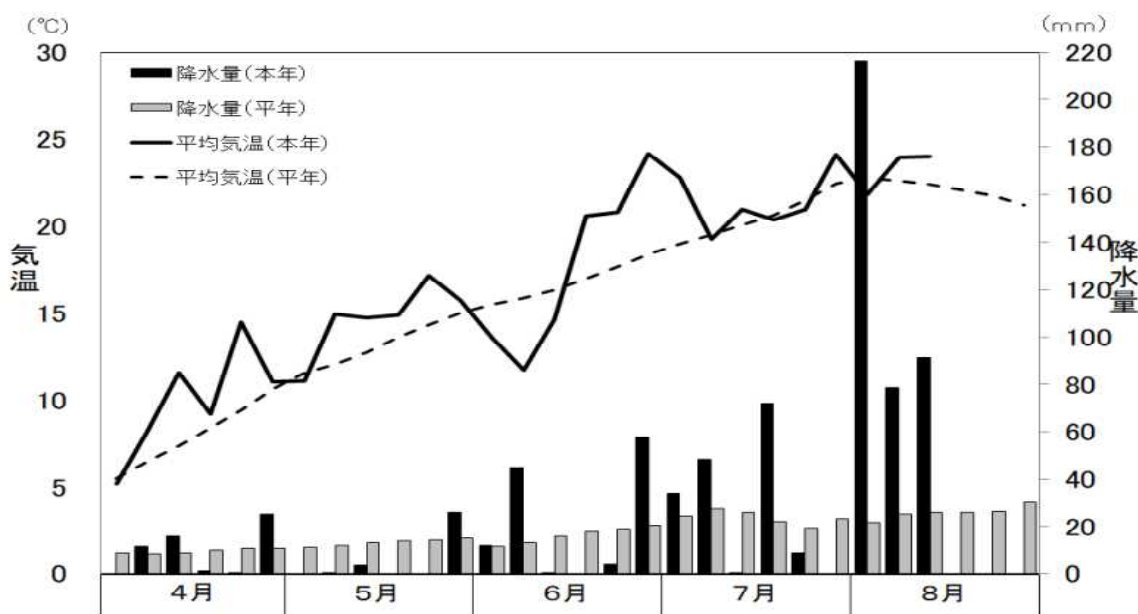
令和4年8月18日  
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

## 秋の農作業安全運動展開中

実施期間：令和4年8月15日（月）～10月31日（月）

- 慣れた作業でも油断せず、安全を確認して、注意しましょう！
- 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう！
- 自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業をしましょう！
- 1人での作業は避け、やむを得ず1人で行う場合は、家族に作業場所と帰宅時間を伝え、携帯電話を持ちましょう！
- 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう！

## 気象



【半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）】

### 【7月】

- ・平均気温は、期間を通して平年を上回った。
- ・日照時間は、上・中旬は平年を下回り、下旬は平年を上回った。
- ・降水量は、上・中旬は平年を上回り、下旬は平年を下回った。

### 【7月の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	21.1	19.3	25.3	23.8	18.2	15.5	29.6	43.8	82.5	51.9
中旬	20.7	20.4	24.1	24.8	18.3	16.8	19.2	41.3	72.5	47.9
下旬	22.7	22.0	27.1	26.1	19.2	18.4	63.0	50.9	9.0	42.4

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

## 【8月上旬】

- ・平均気温は、平年より0.2℃高かった。
- ・日照時間は、平年を下回った。
- ・降水量は、平年を大幅に上回った。

### 【8月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	22.9	22.7	26.6	27.3	20.0	19.0	28.3	51.1	295.0	46.5

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

## 【8月3日からの大雨による被害】

- ・8月2～3日は東北地方に停滞した前線上に低気圧が発生し、台風第6号を起源とする暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。
- ・十和田における月最大24時間降水量は、8月としての観測史上1位を更新した。
- ・この大雨により、河川の溢水、土砂災害や浸水害が発生し、多くの住宅被害、農業被害等が発生した。

## 東北地方 1か月予報（8月20日～9月19日までの天候見通し）

令和4年8月18日 仙台管区气象台 発表

- 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- 期間の前半は気圧の谷の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並みが多く、日照時間は平年並みか少ない見込みです。

## 水 稲

### 《生育状況》

- 1 管内の出穂最盛期（50%出穂）は、平年より2日早い8月4日であった。
- 2 出穂後の開花・登熟は順調に進んでいる。

### 【上北管内の市町村別水稲出穂状況】

市町村	作付面積 (ha)	出 穂			最盛期の 平 年 差	備 考
		始め	最盛期	終わり		
十和田市	3,270	7月30日	8月2日	8月6日	早3日	[出穂始め] 5%到達日
七戸町	1,520	7月31日	8月4日	8月9日	早2日	
東北町	1,100	8月2日	8月5日	8月10日	早1日	[出穂最盛期] 50%到達日
野辺地町	29	8月2日	8月6日	8月12日	早2日	
横浜町	145	8月2日	8月6日	8月10日	早2日	[出穂終わり] 95%到達日
三沢市	190	8月3日	8月7日	8月11日	早3日	
六戸町	724	8月1日	8月3日	8月6日	早3日	
おいらせ町	442	8月3日	8月6日	8月8日	早2日	
六ヶ所村	51	8月1日	8月3日	8月8日	早6日	
管内全体	7,471	8月1日	8月4日	8月8日	早2日	

### 《今後1か月間の主な作業》

#### 1 水管理

落水時期が早すぎると、玄米の肥大が抑えられ、収量や品質・食味の低下を招くので、湿田では出穂後20～25日、乾田では出穂後30～35日を目安に落水する。

## 2 刈取り

- (1) 「まっしぐら」の刈取適期の始め(出穂後の積算気温960℃の到達日)は、出穂期が8月4日のほ場で9月18日頃になると見込まれる。

【「まっしぐら」の刈取適期の目安(十和田アメダス：8月16日以降は平年値使用)】

刈取適期	出穂期				
	7月30日	8月1日	8月3日	8月5日	8月7日
適期始め	9月12日	9月15日	9月17日	9月20日	9月22日
適期終わり	9月25日	9月28日	10月1日	10月4日	10月7日

注) 適期始めの目安は出穂後積算気温960℃到達日、適期終わりの目安は出穂後積算気温1,200℃到達日

- (2) 個々のほ場の刈取適期は、出穂の早晚や籾数の多少によって異なるので、籾の黄化程度(ほ場全体の籾の約90%が黄化した時期)や籾水分(25~26%程度まで減少した時期)等から総合的に判断する。
- (3) 本年は出穂後の高温により、刈遅れによる茶米や胴割米の多発が懸念されることから、特に適期内の刈取りに努める。

## 3 乾燥

- (1) 登熟ムラによる高水分籾や未熟な籾の混入が多い場合は、籾水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5~6時間以上貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- (2) 「良食味・高品質米」生産のため、適正水分15.0%を目標に乾燥する。

## 4 その他留意する点

- (1) 倒伏した場合は可能な限り株起こしを行う。また、冠水したほ場では、可能な場合は動力噴霧機で散水し、稲に付着した泥を洗い流す。
- (2) 刈取りに支障がないよう、刈取り前までに降雨に備えた排水路の整備を行う。
- (3) 早期の倒伏や冠水被害があった場合は品質の低下が懸念されるので、できるだけ別刈り、別乾燥、別出荷する。
- (4) コンバイン等の機械の点検時には必ずエンジンを停止する。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど、農作業事故が起きないように十分注意する。

# 大豆

## 《生育状況》

- 1 生育観測ほの生育は、開花期は平年より4日早い7月31日で、8月10日現在の草丈は平年を上回っている。
- 2 8月上旬の大雨により、一部の生育が旺盛なほ場で倒伏が見られる。
- 3 べと病の発生が少程度見られるほか、ウコンノメイガ等食葉性害虫による食害が散見される。

【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	開花期 (月/日)	8月10日現在 草丈(cm)	備考
十和田市切田	本年	7/31	97.1	6/12は種(平年:6/6)
	平年	8/4	82.8	
	前年	7/28	105.6	

注) 平年値は平成13年~令和3年の平均値

## 《今後1か月間の主な作業》

### 1 病害虫防除

- (1) マメシクイガの防除は、8月第6半旬～9月第1半旬に1回行う。ただし、連作ほ場の場合は多発する可能性が高いため、8月第5半旬に1回目、その7日後に2回目を散布する。
- (2) 紫斑病は、開花期後20～40日が防除適期であり、8月下旬～9月初めのマメシクイガ防除との同時散布が可能である。
- (3) チオファネートメチル剤(トップジンM)とベノミル剤(ベンレート水和剤)は、紫斑病に対する耐性菌が確認されているので、利用を避けるほか、昨年アズキシストロビン剤(アミスター20フロアブル)を使用した場合は、紫斑病に対する耐性菌の発生を回避するため、別の薬剤を使用する。

## 小 麦

## 《今後1か月間の主な作業》

- 1 は種予定のほ場で雑草が発生している場合は早めに耕起し、雑草をすき込む。
- 2 ほ場の団地化を図り、明きょや弾丸暗きょを施工し、十分な排水対策を行う。
- 3 地力増進のため堆肥を施用するほか、土壌分析を行い、適正pH6.0～6.5となるように苦土石灰等を施用する。
- 4 適期(9月15日～25日)には種できるよう、耕起・砕土などのほ場準備を行う。耕起・砕土は、出芽や苗立ちの確保に関わるので、丁寧に行う。
- 5 雪腐病などの防除のため、薬剤による種子消毒を徹底する。

## ながいも

## 《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、いも長43.3cm(平年比113%)、いも重224.4g(平年比123%)、いも径42.7mm(平年比120%)で平年を上回っている。
- 2 一般ほ場でも、新しいもの肥大は順調であるが、7月の日照不足や8月上旬の大雨の影響で、茎葉の生育が緩慢なほ場が見られる。また、大雨による穴落ちも見られる。
- 3 葉渋病の発生が広く見られ、一部で炭そ病の発生も見られている。

### 【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	つるのネット 頂到達日 (月/日)	8月10日現在		
				いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
東北町野田頭	本年	5/ 9	7/10	43.3	224.4	42.7
	平年	5/12	7/10	38.3	181.9	35.7
	前年	5/12	7/ 4	46.5	459.3	51.4

注) 平年値は平成25年～令和3年の平均値

## 《今後1か月間の主な作業》

- 1 大雨で穴落ちが発生したほ場は、できるだけ速やかに埋め戻す。
- 2 台風に備えて支柱の補強や、明きょの設置等排水対策を徹底する。
- 3 病害虫防除は、炭そ病、葉渋病、ナガイモコガの防除を中心に計画的に行う。

## 露地ねぎ

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、草丈、茎径とも平年を上回っている。
- 2 一般ほ場では、7月中旬から出荷が行われており、肥大は概ね良好である。
- 3 一部のほ場でべと病、さび病、斑点性病害の被害が見られる。
- 4 7月第1、2、4半旬及び8月上旬の大雨の影響により、追肥、培土、収穫作業に遅れが見られている。

#### 【生育観測ほの生育状況(品種：夏扇パワー)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	定植期 (月/日)	8月10日現在	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
十和田市洞内	本年	1/20	4/11	104.6	28.6
	平年	2/15	4/28	95.7	21.7
	前年	2/3	4/12	112.5	27.7

注) 平年値は平成17年～令和3年の平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 明きよの設置等排水対策を徹底する。
- 2 生育の進み具合に合わせ、葉色が淡くなりすぎないように追肥を行う。また、最終培土(収穫予定の15～20日前が基準)は、適期に行う。
- 3 病害虫防除は、べと病、さび病の防除を中心に計画的に行う。

## ごぼう

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、草丈は平年比89%、葉数は90%で平年を下回っている。
- 2 一般ほ場の地上部の生育は概ね順調である。8月上旬の大雨により、茎葉の損傷は少なかったものの、一部で浸水ほ場が見られた。
- 3 病害虫は、黒斑細菌病が全域で散見されている。

#### 【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	8月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/11	105.2	2.6
	平年	4/30	118.6	2.9
	前年	5/1	112.6	3.3

注) 平年値は平成24年～令和3年の10か年の平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 黒斑細菌病の防除のほか、ヒョウタンゾウムシの被害が予想されるほ場では、本虫を対象とした防除を実施する。

## りんご

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の8月11日現在における果実肥大（横径）は7.1cmで、平年比107%であった。
- 2 黒石市（りんご研究所）における果実肥大（横径）は7.4cmで、平年比110%、前年比107%となっている。

### 【生育観測ほの生育状況】

調査地	品種	8月11日現在の果実肥大(横径)				
		本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	ふじ	7.1	6.6	107	6.3	112

注) 平年値は平成28年～令和3年の6か年平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 仕上げ摘果が終了した園地でも、今一度見直し摘果を徹底する。
- 2 早生種は熟期が揃わないので、地色、着色を見て2～3回に分けて収穫する。なお、ストップール液剤の散布後7日間、ヒオモン水溶剤の散布後4日間は収穫できないので注意する。
- 3 モモシンクイガの産卵が続いているので、無袋栽培では8月末までの薬剤散布にはモモシンクイガの防除剤を混用する。

## りんどう

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 ネット上げ  
草丈の伸びに応じてこまめにネットを引き上げ、茎の曲がりを防ぐ。
- 2 病虫害防除
  - (1) 葉枯病や褐斑病、アブラムシ類やアザミウマ類の防除に努める。茎葉が繁茂していると薬液が付着しにくくなるため、丁寧に散布する。
  - (2) ほ場周辺の雑草は、害虫の発生源となるため除草を徹底する。

## 牧草

### 《生育状況》

生育観測ほでは、平年より3日遅い7月21日に2番草を収穫し、10a当たり乾物収量は190kgで平年比90%であった。

### 【生育観測ほの生育・収量状況(オーチャードグラス主体)】

調査地	年次	収穫日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)
十和田市大不動	本年	7/21	77.6	190
	平年	7/18	77.6	212
	前年	7/16	77.5	212

注) 平年値は平成24年～令和3年の10か年平均値

## 《今後1か月間の主な作業》

### 1 2番草の収穫及び追肥

2番草を収穫していないほ場は、速やかに収穫するとともに追肥する。

### 2 草地の更新

牧草の収量が減少し、期待生産量が得られなくなった草地は計画的に更新し、生産力の回復に努める。今後は以下により作業を進め、9月中旬を目途には種を終えるようにする。

#### (1) 土壤改良・は種床造成を終えている場合

は種床造成後、3～4週間放置し、雑草を十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布して、雑草表面が乾いてから、牧草の施肥とは種を行い鎮圧する。

#### (2) これから草地更新する場合

##### ア 土壤改良・は種床の造成（8月末まで）

堆肥の散布と耕起を行い、石灰質資材やリン酸質資材を散布、砕土・整地しては種床を造成する。

##### イ 3～4週間放置

は種床造成後3～4週間放置し、雑草を十分に発芽させる。

##### ウ 除草剤散布

雑草が十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布する。

##### エ は種・施肥・鎮圧

除草剤散布後、雑草表面が乾いたら、牧草のは種と施肥を行い鎮圧する。

## 飼料用とうもろこし

## 《生育状況》

生育観測ほの絹糸抽出期は8月12日で平年より4日遅れている。

### 【生育観測ほの生育状況（品種：パイオニア115）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月20日現在		雄穂抽出期 (月/日)	絹糸抽出期 (月/日)
			草丈(cm)	葉数(枚)		
東北町北栄	本年	5/21	130.8	11.5	8/9	8/12
	平年	5/22	145.9	13.1	8/6	8/8
	前年	5/14	195.1	14.1	8/1	8/3

注) 平年値は、平成24年を除いた平成23年～令和3年の10か年の平均値

## 《今後1か月間の主な作業》

1 ほ場ごとの刈取適期（黄熟期）を確認しながら、計画的に刈取りを進める。

2 大雨・強風等による倒伏・折損が発生したほ場では、速やかに刈取る。